

中国留学体験レポート

国際文化学科

21017104 平倉彩愛

私は中国の北京にある北京師範大学に約4カ月間留学をしました。私が中国に留学しようと思ったきっかけは、父方の叔父が上海で仕事をしており、中国で中国人の方と結婚をしました。そしてわたしのいとこにあたる人は、中国人と日本のハーフです。叔父が上海に居るということもあり、中国には中学生ぐらいのときから興味がありました。叔父が日本に帰ってきたときに見せてくれる中国の風景や、歴史的建造物などの写真を見て、中国にいつか行ってみたいと思っていました。小さいときの私は、ただ観光として、中国に行ってみたくは思いませんでした。それが変わったのはいとこができてからです。叔父一家が日本に遊びに来る機会があり、いとこと叔父が中国語で会話をしているのを見たとき、私も中国語でいとこと会話ができるようになりたい！と思ったのがきっかけです。それから新潟国際情報大学に入学し、中国語のコースに入り、留学を決めました。

私は一般的に日本人が思い浮かべる中国への悪いイメージは普段からあまりありませんでした。しかし、実際に中国に行って生活してみると、衛生面や食事面でびっくりすることがかなりありました。衛生面を見るとどれだけ日本がきれいであったかというのがまざまざと知ることができました。食事の面でもびっくりしたことがありました。日本で食べる中華料理はとてもおいしく私は大好きでした。中国では大好きな中華料理が毎日食べられるなんてとてもうれしいとまで思っていました。ですが、中国の本場の料理は私が思い浮かべていたものとはだいぶ違い、とても味付けが濃く、脂っこいものも多く、辛さもただ辛いのではなく舌がしびれるような独特な辛さのものも多くありました。辛い食べ物にはほぼ山椒がきいており、日本人の舌では感じたことのないものも多かったです。その中で私が特においしいと感じた料理は、麻辣湯です。自分の好きな野菜や練り物、肉などを選ぶことができ、辛さやスープも自分好みにできるので、そのときの気分などによって変えることができ私は、大学の食堂で週に三回ほど食べていました。北京師範大学は食堂が多く、ほとんどの食堂に麻辣湯があったのでいろんなところのものを食べ比べするのも楽しかったです。

そして私がこの留学を経験して一番うれしかったことがあります。それは中国人の友達がたくさんできたことです。大学側が計画を立ててくださった中日交流会でいい出会いが生まれ、私が留学している間、たくさんの観光地に連れて行ってもらいました。そこであった友達は日本人学科の学生でお互い勉強を教えあうことも多く、お互いがいい刺激を受け勉強をすることができました。時には、日本人の嫌な部分を叱ってくれたりもしてくれて本音で話せるほどの仲になりました。最後には互いに涙を流し、別れを惜しみました。今年彼女たちは日本に留学に来ることが決まっているのでまた会うことができるかと

でも楽しみです。